



★ 3さいMちゃんのパパ

忘れもしない去年のクリスマス前、ママが電話越しで泣き崩れていた。「2歳になっても言葉がでないのはおかしいって保健士さんに言われたの、何かの病気だったらどうしよう…」

ママをなだめながら、アレコレと考えを巡らせていた。やはり高齢出産の影響だろうか、いやいやママの実家の中国に1年いたから、ちょっと言葉が出てくるのが遅いだけではなかろうか…。

悩んでいても仕方がないので、地元の病院で小児科の先生に診てもらった。「まだ小さいので、うちの病院で月一回ぐらい言語療法をやって様子を見るのが普通だけど、ご両親がそんなに心配しているのなら、集中的にレッスンを受けられるところを紹介するわよ、ちょっと遠いけど。」それが、もうひとつのおうちとの出会いだった。

もうひとつのおうちのりさ先生が話してくれたことは、ママとパパにとって目からうろこの連続だった

「ご両親は言葉ばかり心配していらっしゃるんですが、真似っこをしたり、一緒に居ることを楽しんだりできるようになることがなによりも大切です。トイレや着替え、食事などの身辺自立も本人の自信に繋がりますので頑張っていきたいですね。自分のことは自分でやりたいという気持ちも、お友だちと一緒に頑張ろうという気持ちを幼稚園のような環境の中で育てていければと思います。」

「何度も何度もできるようになるまで、丁寧に向き合うことが大切だと思います。お子さまが泣くことは悪いことばかりではないんです。いつもと違うことや少し難しいことにチャレンジするときには、泣いてしまうこともあります。でも、それはただ嫌だからというより、頑張りたい気持ちと出来ないかもしれないという気持ちの葛藤からくるものだったりするんです。そういう気持ちに共感しながらも、頑張っていることを最後までやり抜くよう応援することをしていきたいですね。」

「お子さまはお父さまお母さまがお話するのを聞いて学びます。ご家庭でお子さまに真似してほしいやりとりを繰り返し、目に見えるもの、聞こえる音、触った感じ、味、においなど感じることを言葉にしていくことを心がけてください。お子さまがしていることを実況中継したり、お父さまお母さまがされていることを丁寧に説明したりすることも大切です。」

「もうひとつのおうちでは指示を出すことはありません。自分で考えて行動できるようになってほしいからです。お子さまにしてほしいことがあれば、どうやったらお子さまの心が動き、その行動に向かうかを考えた演出を心がけています。お手本となるお友だちがいたら、そのお友だちがやっていることに大人が注目して、コメントしたり、大人の間で話しているのを聞かせたり、非言語でのヒントを出したりと工夫を重ねます。そうすればお子さまが周りからヒントを得て、動いてくれるようになるはずですよ。イヤイヤ期はそもそも指示されるだけで嫌がることも多いので、それだけでもきつとぶつかることが少なくなるかもしれません。」

など、りさ先生のコンサルテーションやプレスクールのフィードバックの際に学んだことはたくさんある。

もうひとつのおうちに通えば通うほど、「子どもは親の鏡なんだな」、ということを感じていった。学ばなければいけないのは、娘の方ではなくて、親の方だった。確かに、子供への接し方など学校で習ったこともないし、自分の両親から教わったこともない。自分が育てられた昔のかすかな思い出や勘違いを頼りに子育てしていたのでは、余りに心もとない。私たちにはプロの教えが必要だった。

もうひとつのおうちに通い始めて1か月、ついに言葉が出た！「ママー」二人で泣きながら喜んだのはいうまでもない。

その後は、心配よりも、毎日の成長を見守るのが楽しみになった。自分の名前が言えるようになり、毎日毎日話せる言葉が増えていった。そして、二語文、三語文まで言えるようになり、最近はお歌を歌うのが大好きだ。また、言葉だけではなく、目がよく合うようになり、友達と手をつないで遊ぶといった、社会性も身についてきた。お友だちが転んで泣いたら、「だいじょうぶ？」と優しく話しかけ、好きなお友だちと遊ぶときは「いっしょにあそぼう！」と明るく話しかけることができる。

身辺自立に関しても、オムツが訓練をはじめたたったの1か月で外れたのには驚いた。家ではオムツをはかせないことと、おしっこはトイレですることを徹底しただけだった。たった3か月で、夜も外れて、外出時もオムツをしなくて良くなった。やはりプロの教えはずごい。ボタンを留めるのを難しそうにしているお友だちを手伝ってあげたり、お弁当のお支度の時、早くお支度ができるとお友だちの水筒を持ってきてあげたりするお世話好きな一面もみられるようになった。

うちの娘の特徴はマイペースなところだったが、りさ先生やもうひとつおうちのスタッフの方々が、声のかけ方や伝え方を一つずつ丁寧に教えてくれたおかげで、なんとか子育てに自信が持てるようになった。プロの専門性にに基づいた、子育ての方法を教わったおかげで、いつも怒ってばかりいたママとパパが、子育てに喜びを見出すことができ、今は自信をもって子育てをしている。これこそ私たちが求めていたものだ。

もうひとつのおうちに出会えてほんとうにラッキーだった。茅ヶ崎から目黒まで4月から週3回もうひとつのおうちに通った時間は決して無駄ではなかった。行きはパパの車で80分、帰りはママが電車を乗り継いで約2時間。この9ヶ月間家族みんながよく頑張った。妻の実家のご両親も日本に来て、家事を手伝ってもらった。

最後に、もし一年前の私たちのように、現在子育てで悩んでいるママやパパがいたら、一人で悩まずに、気軽にもうひとつのおうちに相談するべきだと思います。もうひとつのおうちの先生方は問題解決への道筋を必ず指し示してくれます。あまり回り道をせずに、もうひとつのおうちに相談すれば、きっと私たちがそうだったように、自信をもって子育てに取り組めるようになると思います。もうひとつのおうちに来て、子育ては万国共通、言葉は違っても子育ての心はひとつなんだ、ということを感じました。

